

第213回 上級 商業簿記 ①

問題1及び2について、【 】には科目の記号を、〔 〕には金額をそれぞれ1つのみ記入すること。
なお、空欄となる場合もある。

問題1

	日付	借方科目	金額	貸方科目	金額	
問1	3/31	【 A 】	〔 165,000 〕	【 E 】	〔 165,000 〕	⑤
	4/1	【 E 】	〔 165,000 〕	【 A 】	〔 165,000 〕	⑤
問2	6/30	【 A 】	〔 420,000 〕	【 C 】	〔 462,000 〕	⑩
		【 F 】	〔 42,000 〕	【 】	〔 〕	

問題2

	借方科目	金額	貸方科目	金額	
開始仕訳	【 B 】	〔 4,000,000 〕	【 A 】	〔 3,700,000 〕	⑤
	【 C 】	〔 1,160,000 〕	【 D 】	〔 1,650,000 〕	
	【 E 】	〔 190,000 〕	【 】	〔 〕	
のれんの償却	【 F 】	〔 10,000 〕	【 E 】	〔 10,000 〕	⑤
純利益の振替	【 G 】	〔 750,000 〕	【 D 】	〔 750,000 〕	⑤
配当金の修正	【 H 】	〔 840,000 〕	【 C 】	〔 1,200,000 〕	⑤
	【 D 】	〔 360,000 〕	【 】	〔 〕	

○印は予想配点

第213回 上級 商業簿記 ②

問題3

決算整理後残高試算表

単位：円

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	100	買掛金	145,000
当座預金	11,000	仮受消費税等	0
クレジット売掛金	[③ 75,306]	貸倒引当金	[4,406]
売掛金	[113,000]	未払利息	[③ 1,500]
売買目的有価証券	[491,500]	未払消費税等	[③ 10,826]
買建オプション	[③ 3,500]	未払法人税等	[31,000]
未収利息	[200]	建物減価償却累計額	[③ 568,750]
仮払金	0	備品減価償却累計額	[③ 4,925]
前払地代	[③ 16,000]	車両減価償却累計額	[③ 3,960]
仮払法人税等	0	社債	[③ 198,933]
仮払消費税等	0	資本金	800,000
商品	[175,300]	利益準備金	196,000
建物	800,000	繰越利益剰余金	[③ 160,960]
備品	[9,800]	売上	1,600,000
車両	[③ 13,200]	有価証券評価損益	[③ 17,500]
借地権	500,000	オプション差損益	[2,000]
長期貸付金	[12,000]	受取利息	[③ 200]
売上原価	1,020,000	固定資産売却損益	[③ 400]
給与手当	250,000		
支払地代	[24,000]		
支払手数料	[③ 9,540]		
貸倒引当金繰入（営業費）	[③ 2,800]		
減価償却費	[③ 30,985]		
棚卸減耗損	[③ 2,500]		
商品評価損	[③ 2,200]		
その他の営業費用	120,000		
貸倒引当金繰入（営業外）	[③ 606]		
社債利息	[6,823]		
法人税等	56,000		
	[3,746,360]		[3,746,360]

注意：[] 内の金額がゼロである場合、0と記入すること。

○印は予想配点

第213回 上級 会計学 ①

問題 1

	正誤	理 由	
1.	○		④
2.	○		④
3.	×	割引前の将来キャッシュ・フローが減少する場合には、その見積りの変更が生じた時点の割引率ではなく、負債計上時の割引率によって調整額を計算する。	④
4.	×	全額を親会社の持分に配分するのではなく、親会社と非支配株主の持分比率に応じて、親会社の持分と非支配株主持分に配分する。	④
5.	×	繰延税金資産または繰延税金負債は、回収または支払が行われると見込まれる期の税率に基づいて計算する。	④
6.	×	ヘッジ会計の要件が充たされていた間のヘッジ手段に係る損益または評価差額は、ヘッジ対象に係る損益が認識されるまで引き続き繰り延べる。	④
7.	○		④
8.	×	1株当たり当期純利益は、普通株式に係る当期純利益を普通株式の期中平均株式数で除して算定する。	④
9.	○		④
10.	○		④

○印は予想配点

第213回 上級 会計学 ②

問題2

問1

1	要求払	2	換金可能	3	価値の変動
4	短期投資	5	三か月	各②	

問2

(1) 直接法

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業収入	②	[480,000]
商品の〔 仕入支出 〕	②	[△274,500]
人件費の支出	②	[△41,600]
その他の営業支出	②	[△14,500]
小 計		[149,400]
〔 利 息 〕の受取額	②	[1,300]
〔 利 息 〕の支払額	②	[△1,800]
〔 法人税等 〕の支払額	②	[△34,000]
営業活動によるキャッシュ・フロー		[114,900]

(注) マイナスは金額の前に△を付すこと

(2) 間接法

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

〔 税引前当期純 〕利益	②	[126,000]
減価償却費	②	[20,000]
貸倒引当金の〔 増加額 〕	②	[400]
〔 有価証券売却益 〕	②	[△2,000]
受取利息		[△1,500]
社債利息		[2,100]
売上債権の〔 増 加 〕額	②	[△20,000]
棚卸資産の〔 減 少 〕額	②	[18,500]
仕入債務の〔 増 加 〕額		[7,000]
前払費用の〔 増 加 〕額		[△2,500]
未払費用の〔 増 加 〕額	②	[1,400]
小 計		[149,400]
〔 利 息 〕の受取額		[1,300]
〔 利 息 〕の支払額		[△1,800]
〔 法人税等 〕の支払額		[△34,000]
営業活動によるキャッシュ・フロー		[114,900]

(注) マイナスは金額の前に△を付すこと

○印は予想配点

第213回 上級 会計学 ③

問題3

問1

(1)	1	イ	2	オ	3	コ
	4	カ	5	ケ	各②	

(2)	①	(c)	②	(a)	③	(b)	各②

問2

①使用価値：資産又は資産グループの継続的使用と使用後の処分によって生ずると見込まれる将来キャッシュ・フローの現在価値をいう。	③
②正味売却価額：資産又は資産グループの時価から処分費用見込額を控除して算定される金額をいう。	③

○印は予想配点